

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900469		
法人名	株式会社 愛敬		
事業所名	グループホームみどり 1F		
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地		
自己評価作成日	令和5年9月25日	評価結果市町村受理日	令和6年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2373900469-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>少人数でも外出支援を行い、利用者様の体力維持に努めている 食材を切って頂いたり、食器拭きをして頂いて、利用者様が出来ることを継続して行えるよう支援している</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>あじさいグループの傘下に入って他の事業所との関りが増えたことで、研修が充実したことだけでなく、様々な情報が入るようになった。さらに、これまでの運営方法や支援方法について振り返る良い機会となっている。新しい取組みにチャレンジしたり、これまでの良さを継続したり、より良いホームとなるように取り組んでいる。医療面強化の一環として訪問診療してくれる医療機関を探し、利用者が最期まで住み慣れた地域で暮らしてもらえるよう努めている。 広い敷地の中に畑や花壇を作り、利用者は自由に外に出てテラスでのんびりと日向ぼっこをしたり、職員と一緒に庭の手入れをしたりして過ごしている。畑で利用者が育てたネギなどの野菜を食材として活用している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、運営介護方針と理念を読み上げ、日々の業務に取り入れられるよう意識づけを行っている。	毎日理念の振り返りを行い、利用者により良い生活を送ってもらうためにどうしたらよいかを考えている。特に入職時には、職員に「家でもう一度暮らせるようになるために」を考えてもらうようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域との交流は少ないが、回覧板を届けたり、公園の清掃を行っている。	区長とは良い関係を構築しており、地域行事の情報を得ている。ホームは、地域の一員として清掃活動などに参加している。中学生の職場体験の受入れなど、地域福祉の向上にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習を受け入れている。教職員の研修や高校生の職業研究の受け入れも行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5年11月開催の会議から集合開催。それまでは書面での開催でご意見はFAXでいただいている。	対面開催が再開された運営推進会議には、消防隊員が参加しており、災害時の連携強化を図っている。書面開催をしていた時には、資料を直接持っていき、意見を聞く機会を設けていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や地域包括センターの担当者と日頃から連絡を取り、協力関係を築いている。	市の担当者とは、不明点の相談などがあるときには、窓口に出向いて話をしている。地域包括支援センターとは、新規利用者の受入れや感染症対策などについて情報交換をするため、連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、離設後重大な事故に発展するおそれがあるため、やむを得ず行っている。不適切な対応がないよう朝礼時不適切ケアガイドラインの内容を周知共有している	身体拘束適正化委員会を2~3ヶ月ごとに開催し、センサーの使用についてなどを検討している。安全に配慮しつつ、身体拘束をしないケアをするための方法を職員で考え、共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにおいて、高齢者虐待防止について、何が虐待になるかを利用者様本位となって考えることを学習し、ご家族様とも連絡を取りながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に成年後見制度を利用されている方がおられるほか、月に一度の施設会議と会別ミーティングで勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現場スタッフではなく責任者が契約前に施設見学、説明を行いご理解頂いている。改定の際は手紙や貼り紙などご家族様にお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払い時やリモート面会、SNSを通じ、ご家族様から意見・要望をお聞きし、スタッフはミーティングや申し送りの際に内容を把握している。	定期的に家族アンケートを実施している。家族からはねぎらいの言葉が多く、職員はそれを励みにしている。面会は基本的には自由にしており、気軽に話ができる関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、個々に話す機会を設けている。	フロアリーダーが中心となり、職員主体で考えてもらうようにしている。チェック表を作成し、皆で取り組むことで気づき生まれ、様々な業務改善につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は現状把握している。スタッフによって労働時間にばらつきはある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供は行っている。内部研修は毎月のミーティングと法人内で定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話での情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に、本人様との面談で要望をお聞きしたり、ご家族様にも来所をお願いし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様と面談を行い、不安な点や要望について丁寧な説明を行っている。入所後も状態報告を行い専門医(精神科)受診も検討する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスにてスタッフ同士意見や情報を出し合って、施設サービス計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の能力に応じて、掃除や食器拭きなどのお手伝いをして頂き、役割をもって頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月みどりだよりに利用者様にメッセージを書いて頂く。リモート面会や直接の面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍やスタッフの人員不足により、面会に来られる方や馴染みの場所への外出は少なくなっている。	感染への警戒を緩めておらず、面会制限により、知人との面会はできない状況である。それでも、入居前の行きつけのスーパーなどには、職員と一緒に買い物に行き、馴染の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士を席が隣になるようにさせて頂いたり、カードゲームやボール遊び、日光浴を複数人の利用者様で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙などを頂いて関係性を保ち、ご相談があれば支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴日でない日もご希望があれば入って頂いている。お化粧や畑での作業などこれまでの習慣が続けられるよう支援している。	利用者から出る様々な意向を叶えられるように、工夫して対応している。夜間帯にお風呂に入りたい、ペースト食や刻み食でも皆と同じものを食べたい、という願いを実現した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様に直接お聞きしたり、ご家族様からのお話や看護サマリー等を参照して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に日中・夜間どう過ごされたかを記入し、特変がある場合は日報にも記入してスタッフ間での周知に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングにおいて、モニタリング・カンファレンスを行い、現状とケアプランが合っていなければ適宜変更しプランを作成している。	利用者や家族の思いが詰め込まれた介護計画になるように努めている、利用者の望みが大きな目標であっても、職員が知恵を出し合い、一歩ずつ目標に近づけるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアプランの実施状況を記入し、モニタリング・カンファレンス時に参照している。排泄の間隔を見極めてトイレ誘導の時間を決めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍においてもリモート面会や窓越しでの面会を通じて、本人様やご家族様の「会いたい」というニーズに応えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時でも継続して安全を保てるようハザードマップ等を参照して事業継続計画を作成する予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度内科の往診を受けて頂いている。必要がある利用者様には、眼科・皮膚科・精神科・歯科の往診も受けて頂いている。	かかりつけ医は、利用者・家族の意向に沿うようにしている。協力医の訪問診療以外にも、皮膚科や眼科、歯科などの往診が受けられるよう、ホームが適切な医療機関を探している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看に診て頂いている。血圧の再測定などの指示や、特変時の対応について相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況や退院時期など情報交換をこまめに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り段階となられる前に、本人様やご家族様に十分な説明を行い、意向を伺っている。	住み慣れたホームで最期を迎えて欲しいという家族が多く、看取りの事例は多い。寝たきりの状態でも音や匂いを感じられる場所で過ごしてもらおうなど、より良い最期を迎えられよう支援している。	看取り介護に入ったときの医療連携を改めて考える機会を設け、より一層、利用者と家族の意向に沿える体制を強化することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修において応急手当や、急変時の初期対応を確認しており、マニュアル化して実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者様・スタッフともに参加して避難訓練を行っている。	年2回の定期訓練の他に、被災時に調理器具が使えない状況になったことを想定し、毎月1回、カセットコンロを使った調理をイベントとして行っている。職員も利用者も、その状況に慣れるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関係性ができているスタッフと利用者様の間で、親しみを込めた言葉遣いをしていることもあるが、基本的に丁寧な言葉かけを行うよう心掛けている。居室にスタッフが入る際はノックを必ず行っている。	利用者一人ひとりを尊重した声掛けやプライバシーには、十分配慮した対応をしている。利用者とは本気で向き合い、時には家族のようにケンカをすることもある。それを繰り返すことで、信頼を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの要望で、個別の運動や畑での作業をケアプランに取り込んでいる。好きなものを食べたいという要望があれば、企画を立てて実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休みたいと訴えがあれば、無理せず休んで頂いたり、起床時になっても傾眠が強い利用者様は、ご自分で起きられるまで休んで頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お化粧の準備や支援を行っている。定期的に爪切りを行っている。二か月に一度訪問美容室のサービスでヘアカット・ヘアカラーをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の野菜等を切ってもらったり、ホットプレートでスタッフと一緒に調理を行っている。毎食後、食器拭きをお手伝いして頂いている。	畑で採れた野菜も使い、四季を味わいながら食事を楽しむ工夫をしている。利用者のリクエストで、ホットプレートを使ったお好み焼きをすることもあり、一緒に作る楽しみを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減に応じて白米の量を調整させて頂いている。ご自分であまり水分を摂れない利用者様には、こまめに声掛けおこない水分補給して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛け行い支援している。飲み込みが悪くなっている利用者様には、食前にガーゼで口腔内マッサージをさせて頂き、誤嚥を予防している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄ペースを把握して、定時以外にも各利用者様に合ったトイレ誘導を行っている。下剤使用の際は、一人一人の効果のある時間を把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄自立の利用者は、見守り中心で自立支援をしている。トイレでの排泄が維持できるよう、オムツを着用している利用者も、可能な限りトイレ誘導をしている。夜間は利用者の状況に合わせた介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操や個別の運動、散歩や畑作業などで体を動かして頂き、自然に排便が促されるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時は決まっているが、利用者様の希望があれば入浴日でない日も支援を行っている。同性介助を希望される利用者様には同性スタッフが入浴支援を行っている。	利用者がお風呂に入りたいという気持ちを大切にしている。拒否のある人には無理強いせず、声掛けの工夫で脱衣所まで誘導し、気分を乗せてお風呂に入ってもらよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にレクやお手伝いなどに積極的に参加して頂き、睡眠のリズムが整うよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティング時に、かかりつけの薬剤師による薬の説明を受け、理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやモップがけ、洗濯物たたみなどの役割をお願いしている。畑に苗を植え成長を見守り収穫する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	人が多くいる場所は避ける。食材の買物に週3回外出するほか、ドライブで花見をしたり、日常的に散歩にお連れしている。テラスにて日光浴も行っている。	近隣の散歩や食材の買い物、季節の花を見に行くなど、外出の機会を作っている。職員が通勤途中に見つけた利用者が楽しめそうな場所も情報共有し、積極的に外出の機会を作っている。テラスへは、自由に出入りできるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したい希望がある利用者様には、ご家族様の了承のもと自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月みどりだよりでご家族様に近況を報告している。ご自分で文章を書ける利用者様にはご自分で書いて頂いている。近年はリモート面会も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花を活けたり、季節の壁飾りを利用者様に作成して頂いている。定期的に窓を開けて換気を行っている。	共有空間の窓からは、四季の移り変わりが感じられる。通路には利用者が描いたスケッチや絵画、手芸作品などを掲示している。リビングには、お祭りの半被や庭から摘んできた花を飾り、華やかさを演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で食事をして頂いたり、一人で休みたい利用者様にはご希望に応じて居室で休んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスをご自宅からお持ちください使用されている。衣装ケースに種類別にシールを貼らせて頂き、ご本人が衣類を取り出しやすくなるようにしている。	居室の掃除は毎日行っている。利用者が過ごしやすいよう、家具の配置などのレイアウトを職員と一緒に考え、安全に配慮しながらも落ち着いて過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置を工夫して、お一人でも安全に歩けるような環境づくりをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900469		
法人名	株式会社 愛敬		
事業所名	グループホームみどり 2F		
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地		
自己評価作成日	令和5年9月27日	評価結果市町村受理日	令和6年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2373900469-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和5年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑で育てた野菜を利用者様と一緒に収穫を行い、食事や季節の行事で食べていただいている。季節の野菜や花を畑と花壇で育て、花はフロア等に生けたり外に見に行ったりし施設内でも季節感を感じていただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理室の目のつく所に、運営介護方針と理念を掲示し職員全員の意識を共有している。 毎朝の申し送りの際に必ず読み上げ実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や区長から連絡がある。 利用者様と回覧板を隣家に届けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験が今年度から再開しました。 受け入れの際に認知症について説明し支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はまだ再開できていない 市町村から文書によるなどの方法で対応している。FAXや電話などでご意見をいただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者や市役所の担当者とき適宜連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に研修で学んでいる。玄関の施錠は離設事故、不法侵入者防止を未然に防ぐ為やむを得ず行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待防止について学んでいる。 職員同士で気をつけ合う関係作りをしている 困難事例などがあれば情報を共有して虐待が起こらないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に成年後見制度について学び、一名の利用者様が利用していることを全職員が把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学、説明を行い十分理解していただいている。改定等の際は家族会、手紙等を通じて説明し、不安や疑問にお答えしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入金時や面会時にご家族から意見、要望をお聞きしている。利用者様からの要望があればご家族と相談後その都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月三回のミーティングで意見交換を行い、気になることは随時意見を聞けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、勤務年数、取得資格、役職に応じた給与になるようにしている。 労働時間も相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、徐々に増えている。内部研修は毎月行われており、研修の内容はレポートにまとめ日々のケアに取り入れて実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際に同業者と交流がある 同じグループ会社の他施設の方とは、オンライン等で勉強会や会議を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の情報提供書類や面談時の本人から得た情報をふまえて関係をはかっていき、また職員間で得た情報を共有して本人の要望に対応できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者、事務長が、面談を行い、不安や要望をお聞きしている。面談時以外にも電話で要望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスで施設サービス計画作成担当者フロアリーダー、職員間で話し合い施設サービス計画書に反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たため、畑と庭の草取りなどできる方には積極的にしていただいている。できない部分を職員がサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	みどりだよりや面会時に近況をお伝えしている。ご本人が必要な物があればご家族が持ってきて下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方も面会に来られるようになりました。希望がある利用者様は、一緒に買物に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志で一緒にできる行事等を企画して関わり合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話等を通じて関係性が途絶えないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方にも日々の様子等を職員間で話し合い健康状態を配慮したケアを行っている。外に行きたいと希望された時は、散歩や食材の買物等に出かけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の錠坊や病歴などの書類を通じてこれまでの生活歴や暮らしを把握している。日々のご本人様との関わりからもこれまでの暮らしの情報をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に日々の気づいたことや排泄リズム、食事、水分量、バイタルなどを記録し、職員間で情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを実施し、その中で各職員が日々の生活の中での意見交換を行い、それをもとに介護計画書の作成し、見直しがが必要な際もカンファレンスを行い見直しを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアプランの実施状況を毎日記載しており、その情報を基にカンファレンスを行い見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リモートや面会時に状況を報告したり、その時々要望があれば対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節を感じられるよう、ひまわり畑やつつじの花を見に出かけました。スーパーやホームセンターに買物に出かけることも増えました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科往診を受けている。ご家族や本人様のご希望又は必要な方は歯科、眼科、皮膚科、精神科往診を受けている。かかりつけ医への受診は外部サービス等利用して通院支援もしている。訪問看護師による健康管理も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の方に特変のある方を診ていただいている。その方の状態に応じ適切な対応の助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の相談員を通じ情報交換を行い、退院時の相談等密に連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化する以前にご家族やご本人に意向を伺っている。看取りのなられた時もその都度ご家族に説明、意向の確認をしている。常時医療が必要でない限り希望があれば看取りに対応する事を説明し、段階ごとに意向を確認し協力医との連携し方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修で学び実践で活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。利用者様にも参加していただき、地域の方にも協力を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対し丁寧な言葉づかいや、居室に入室する際は声かけやノックをして許可を得てから等の配慮も行う。入室時のノック等りようの尊厳を傷つけないよう配慮している。希望があれば同性介助にも対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が主体となりやりたい事などを聞きとり企画を立てたり、実行できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の利用者様とおしゃべりを楽しまれたり、歌を聞かれたりとそれぞれのご希望があれば支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好みの洋服を選んだり、2か月に1回訪問理容を依頼しカットやカラーなど依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が食べたい物などお聞きし、ラーメン屋をしたりバーベキューを行い、一緒に準備等している。食事は職員が調理し、準備で野菜の皮むきや切ったり、片付け等も利用者様にも参加していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせ、量の調整や刻み食ミキサー食の提供を行い、お好みの水分を提供したりおやつのも量も状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後緑茶での口腔ケアを行っている。ご自分のできる方は準備、声かけを行い、出来ない方は口腔ケアガーゼを使用し介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様それぞれの排泄ペースに合わせてトイレ誘導、介助を行っている。下剤も医師との連携で効果がある方に合った物を使用し介助している。定時や様子を見て声かけし失敗しないよう誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝全員で体操を行ったり、野菜を多く摂って頂いたり、希望者は乳酸菌飲料を個人で購入し飲んでいる。散歩などの運動で自然排便を促す支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の利用者様のご希望に添い同性職員の介助や入りたいタイミングの調整を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場、冷え性の方には湯たんぽの使用したり、拘縮がある方はクッションを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬剤師の方より薬の説明など受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のできることを考慮し食器拭きや掃除、洗濯物を干したりたたんで頂いている。おやつをもちより女子会などで楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に散歩に出かけたり、お買い物のお手伝いをして頂いている。季節を感じて頂くために車でひまわりや桜、つづじ見学に出かけている。日常的に散歩時や庭で咲いている小花をつんでりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持を希望されている方は、ご家族の了承のもと自己にて管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月みどりだよりで近況報告しご自分で書かれたり、色塗りをされている。遠方に住むご家族様からのお手紙やはがきをいただき、楽しみにされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁飾りを折り紙で作成したりしている。季節によって冷暖房で温度調整しそれぞれに合わせて着る物を調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者様はお好きな所で過ごされたり、気の合った方と過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれたタンスやケースを持ってきて頂いている。種類別にシールをつけてわかりやすいようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線がわかりやすいよう物を整理し安全に生活出来るよ工夫している。		